

未来に残る仕事

とび工

工事に携わるさまざまな職人が高所で作業できるように足場を組み上げていくのがとび工の主な仕事だ。中でも小林さんが得意としているのは、地上から組みあげる通常の足場と違って、橋の補修工事などで橋桁からチェインなどで作業場を宙につり下げる「吊り足場」だ。

まず、橋桁の上に管を通し、そこからチェインをつり下げて、足場を支える管を通す。施工図面は用意されているものの、どこに管を通し、チェインをつけるかは、現場の状況を見ながらの判断となる。ボルトを締めあげるラチェットレンチや金属線を切断するクリッパーを扱う手さばき

工事の安全支える足場を

株式会社ワークス・ワン
職長
小林 蓮さん



22歳と若いですが、既に7年の経験を積んでおられる。現場監督を務める酒井工業工事部長の河内慈さんともものにしては、若いのに頼もしい」と温かく見守っている。

は抜群。「同世代には負けない」。数々の難しい現場を経験してきた小林さんの自負のぞく。

中学卒業後「兵庫県髙土工連合会副会長でもある久保田社長に拾ってもらい」この世界に入った。とび装束を「かっこいいなあ」と思った。きつい作業もあるが、弱音を吐くことなく続けてきた。「尊敬する先輩のように、広い人脈を持って、誰からも信頼される親方」に、いつかになりたい。

組み上げる途中の足場から転落しそうな危険な目にも遭ったが、その都度、同じことを二度と繰り返さないよう自身を戒めてきた。

現場監督を務める酒井工業工事部長の河内慈さんともものにしては、若いのに頼もしい」と温かく見守っている。



橋梁補修工事の「吊り足場」を組みあげる小林さん＝姫路市広畑区西蒲田

鉄筋工

富田興業株式会社
南班職長
南 昌宏さん



丈夫な構造物 骨組みが鍵

宝塚市内にある10階建て188戸のマンション建設現場が南さんの現在の作業場だ。鉄筋工として働く父の経験と技が生きている。出来上がった鉄筋工として働く父の経験と技が生きている。出来上がった鉄筋工として働く父の経験と技が生きている。

「自分い。その型枠の中にコンクリートが流し込まれて梁や柱となり、建物の骨格をつくる重要な部材となる。近年はビル、マンション、は構造物の耐震性がより求められるようになった。常に心掛けてきたり、使われる鉄筋の量も格段に増えた。「あ、だろ」と思わず、これらかじめだけの数でよしと納得できるま

「登 家族と一緒に車で出掛けた。自分が携わった資格も取得している。道路を通るとき、3人鉄筋工の技を競い高の息子に「お父さんの初め開かれる「TE」と話す」と「すごいTSU(てつ)ーグなあ」の言葉が返ってランプリ第一回全国鉄くる。父、息子と3代、筋技能大会」に、関西 同じ現場で鉄筋を組む鉄筋工業協同組合の代日に来るのも遠い先の表として参加すること、こころはなさうだ。



鉄筋工を針金で固定する南さん＝宝塚市東洋町

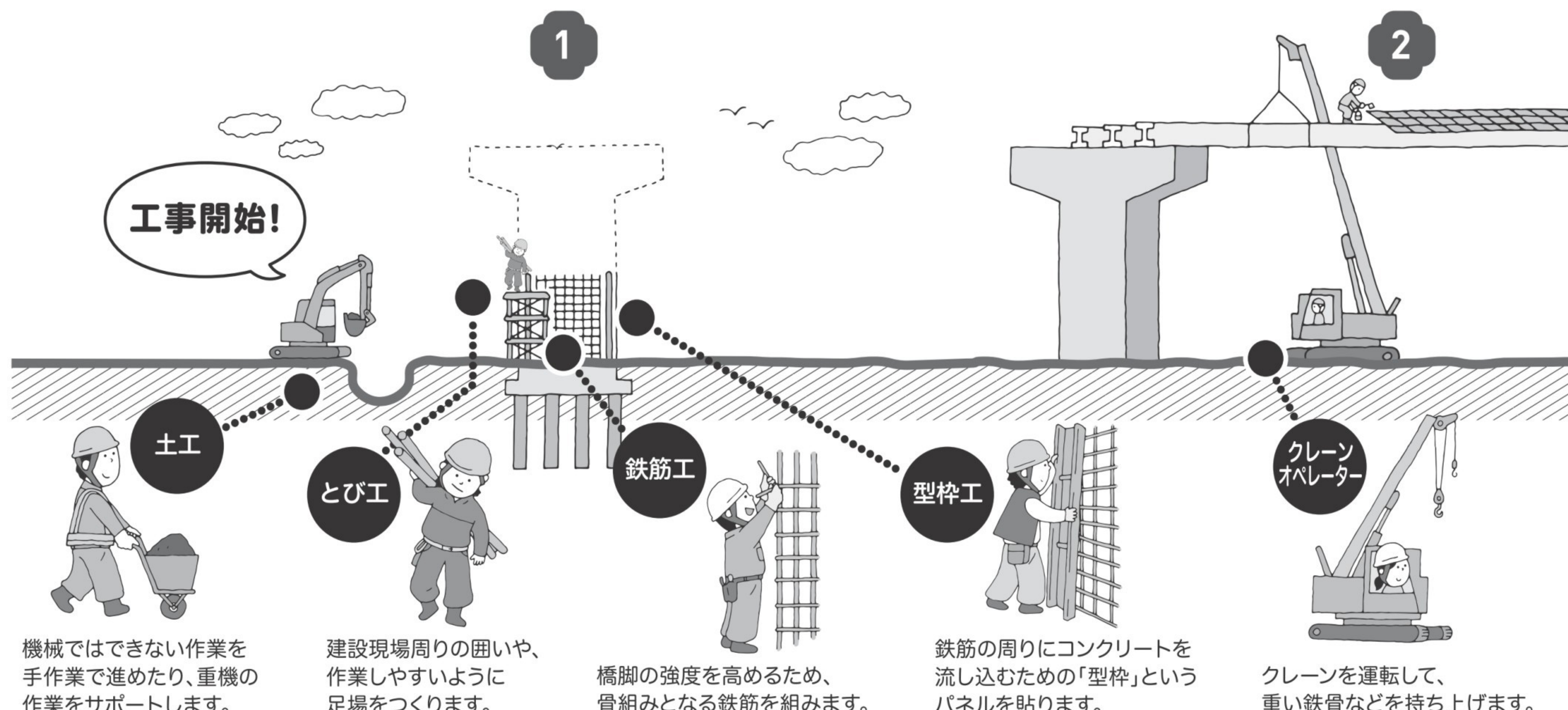
道路、トンネル、橋、ダム、堤防など、私たちの暮らしや経済活動を支える土木構造物。これらの構造物が出来上がるまでには、多くの専門職人が関わっている。人々が安全、快適に暮らし、働けるように、どのように技を磨き、どのような思いで工事に携わっているのか。「とび工」「鉄筋工」「クレーンオペレーター」「舗装工」「現場監督」の5人に思いを尋ねた。

(取材協力＝兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)



橋ができるまで

- 1 土台をつくる
- 2 橋げたをのせる
- 3 しょうばん 床版を設置する
- 4 舗装する



兵庫県建設業育成魅力アップ協議会 建設業界が将来を担う若年入職者を確保し、若い世代に技術を継承して持続的な発展を図れるよう、兵庫県や建設業者団体などが集まり2014年4月に設置した団体。

経験と技が光る

クレーンオペレーター

今年4月に入社したばかりだが、早くも現場で移動式クレーン車の操縦を任されている。まずは比較的小さい13トンのクレーン車から。とはいえ、伸縮するブームは最長24メートルまで伸びる。建築材料から看板まで多様な重量物をつるし、指示された場所に下ろす。スピードと安全と正確さが求められる。「初めはつり荷が大きく揺れて、なかなか下ろすことができなかった」が、先輩に教

大栄運輸株式会社
長谷川 拓也さん



職人と息合わせ重機操縦



移動式クレーン車を操る長谷川さん＝姫路市飾磨区入船町

と呼ばれる職人と息を合わせることが必要だ。「会社でまず教わるのは人間力。あいさつからしっかりと。作業中は、作業中に気が抜けない。街中の現場では、ブームが電線などに触れないように特に慎重になる。「小学校の工事現場で家具を運んだときは、子どもたちの財産を傷つけたりしない、という気持ちで作業する。300トンのクレーンも、車を降りてもまた乗るの目標だ。」

舗装工

舗装工は、道路の土台となる砕石を敷き詰める。その上にアスファルトの層を重ね、ローラーで締め固める道路整備の最終仕上げを担う。

道路建設の仕上げを担う

黒田さんが現在担当している現場は、神戸淡路鳴門自動車道垂水ジャンクションの補修工事。「アスファルトフィニッシャー」という重機を操作し、高温のアスファルト合材をアイロンと呼ばれる鉄の塊で敷きならす。5センチのアスファルト層を、締め固めながら4層重ね、約20センチの厚みに仕上げる。誤差を数ミリに収めるため、アスファルト合材の硬さや気温も考慮に入れてアイロンの高さや角度を調整し、舗装

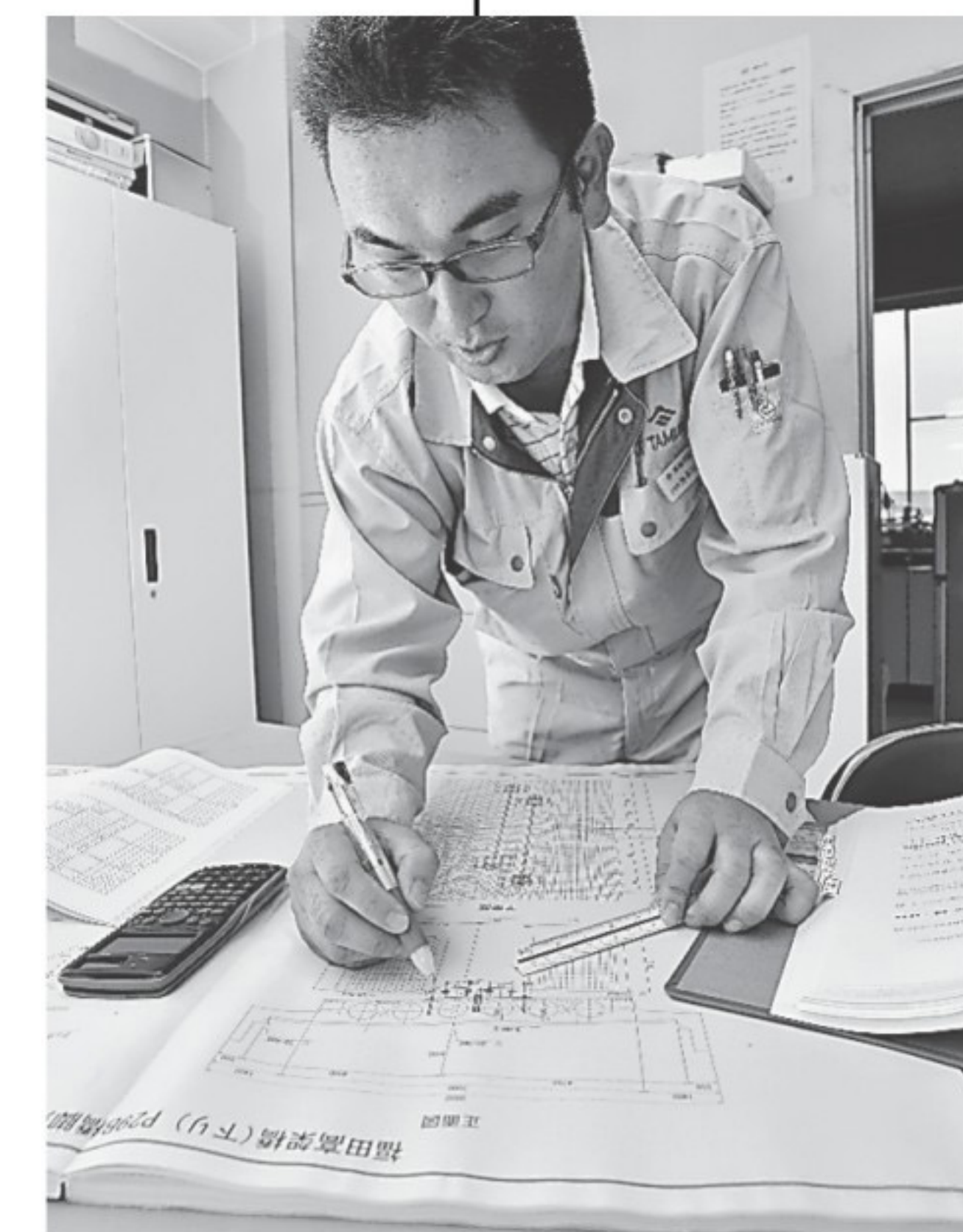
株式会社森長組
土木工部舗装課主査
黒田 剛司さん



舗装作業で活躍する重機を説明する黒田さん＝淡路市志筑新島

工事を進めていく。自分たちの仕事は、快適で安全な車の運転を支えると思うと気が引き締まる。20年前に舗装工の仕事に就いた。トンボを使ってアスファルト合材をならすところからのスタート。約180度の熱を持つアスファルト合材を扱うため、夏場の体感気温は50、60度にもなる。冬場はアスファルト合材がすぐ冷えて固まるため、迅速な作業が求められる。神戸空港の工事では、平均的な日施工量の5倍を超える1日2000トンのアスファルトを正確かつ効率的にト合材を敷く経験もした。厳しい環境の中で、チームワークを大切にすることが求められる。舗装工も順調に育つ

は、作業者の増員や作業時間の延長など、業者と調整しながらの作業が続く。気が休まらない日が続くこともしばしば。それでも苦しみ抜いて完成させた後に「岸本さんの下でまた仕事がしたい」と言ってもらえることが、次の仕事に向かう原動力になる。現場監督として携わ

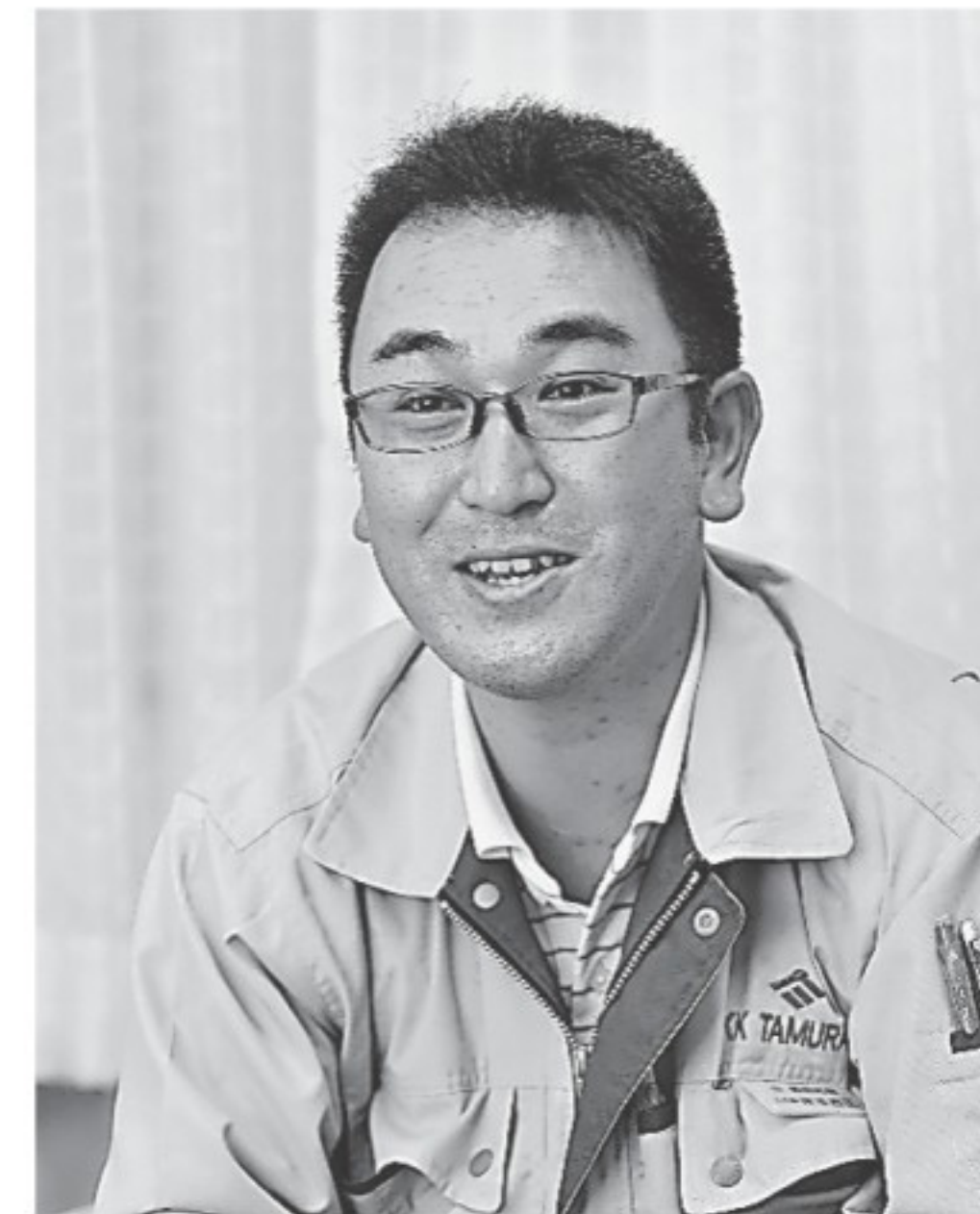


橋の耐震補強工事の図面を確認する岸本さん
＝小野市高田町

職人と信頼築き現場管理

現場監督

株式会社田村組
土木部第2課
岸本吉正さん



進路に悩んでいた高橋君のとき、建設中だった明石海峡大橋の壮観な姿に心打たれた。大卒のとき、建設中だった明石海峡大橋の壮観な姿に心打たれた。進路に悩んでいた高橋君のとき、建設中だった明石海峡大橋の壮観な姿に心打たれた。進路に悩んでいた高橋君のとき、建設中だった明石海峡大橋の壮観な姿に心打たれた。進路に悩んでいた高橋君のとき、建設中だった明石海峡大橋の壮観な姿に心打たれた。

すべての作業で
進み具合を
チェック!



施工管理(現場監督など)

工事の全てに関わり、スケジュールや品質の確認、コストや現場の安全管理を行います。

